

環境学習 2025年5月度 E02:「気候変動とは何か？」

(国連広報センター・IPCC 第6次報告書及び香川大学創造工学部准教授 玉置哲也 著『気候変動が与える影響/現状や世界日本への影響を具体例付きで解説』を基に作成)

会員 K.T.

近年、私達は「気候変動」という言葉を、異常気象のニュースと共によく聞くようになった。SDGs目標13では「気候変動に具体的な対策を」と、掲げる。「気候変動とは何か?」、国際連合広報センターは次のように説明している。「気候変動とは、気温・気候パターンの長期的な変化をいう。(中略)1800年代以降は主に人間活動が気候変動を引き起こしており、その原因は、化石燃料(石炭、石油、ガスなど)の燃焼です。(後略)」

国連広報は、近年世界各地で気候変動による被害多発も、伝えている。

(1)アフリカ :洪水・暴風雨・干ばつ

:アフリカは気候変動に対して最も脆弱な地域の一つである。2022年に観測された異常気象に関する災害は80件、このうち56%が洪水、20%が暴風雨、17%が干ばつに関連する。これらの災害による死者は約5千人、直接的な影響を受けた人は1億1千万以上となっている。

(2)アジア :洪水・暴風雨

:アジアで2022年に観測された異常気象に関連する災害は81件、洪水が56%、暴風雨が26%、死者は5千人以上、直接的な影響を受けた人は5千2百万人以上とされる。

(3)ヨーロッパ: 暴風雨・熱波

:ヨーロッパで2022年に観測された異常気象に関連する災害は40件、暴風雨が57%、熱波が13%、死者1万6千人以上で、その99%以上は熱波によるものとされている。

(4)南アメリカ・カリブ海域:洪水・暴風雨・干ばつ

:南アメリカ・カリブ海域で2022年に観測された異常気象に関連する災害は78件、死者は1千人以上、直接影響を受けた人は1千万人以上とされる。



気候変動は、温暖化が原因、「温暖化は人類の脅威になる」、と科学者達は予想する。地球の気候変動は日本も例外ではない。気象庁の長期観測によると、日本は気候変動により近年、以下の影響が顕著になってきている、という。

- 1)雨の降る日数は減少、大雨・短時間強雨の発生頻度が増加
- 2)真夏日や猛暑日の日数の増加
- 3)積雪の減少、内陸部での大雪の増加
- 4)サンマ等の来遊量や来遊時期の変化
- 5)藻場の消失、サンゴの白化等により近海の海洋生態系の影響

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)がまとめた第6次評価報告書では、「人為的な温暖化ガスの排出が地球温暖化を引き起こしたことに疑いの余地はない。(IPCC AR6 WG1 報告書)」、と言い切っている。

科学者達は、気候変動はさまざまな分野に影響をもたらすと、予想している。

- 1)経済への影響 :イギリスのロイズ保険協会は、異常気象による農作物の不作等食料供給の不安定化、国際労働機関(ILO)は熱ストレスによる生産性の減少を試算している。
- 2)海面上昇への影響 :IPCC は、海面上昇は今後何世紀にもわたって続き、海岸部の陸地が水面下になると警告している。
- 3)生態圏への影響 :気候変動によって、世界的に生態系の悪化が進んでいる。過去50年間における地球上の種の絶滅は、過去1千年万年の平均の数十倍から数百倍といわれる。
- 4)人の健康への影響:熱中症、睡眠障害、蚊やダニの生息地が広がることによる感染症の拡大を懸念。
- 5)気候難民の影響 :「温暖化の現状がそのまま進めば、2050年には世界の3つの地域で気候難民が2億人発生する。」と、国連の国際移住機関は警笛を鳴らしている。

私達は、刻々と迫ってくる気候変動の環境問題を正しく、自分事として学ばなければいけない。気候変動の環境問題を学習することは、予想される気候変動の悪影響を、できるだけ小さくするために、一人ひとりが考え、県が推奨する「エコライフ DAY」等の取組みを日常生活の中で継続することに繋がる、と考えている。

以上